

会 議 録 (要旨)

会 議 名	第 2 回行政評価委員会
開 催 日 時	平成 21 年 8 月 26 日 (水) 午後 1 時 15 分から 2 時 43 分
開 催 場 所	町民会館 第 1 会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：中西委員、平山委員、小野委員、村山委員、小山委員、中山委員、木村委員、 湊委員、伊藤委員、内海委員、金井委員 欠席者：栗原委員 事務局：田辺企画財政課長、大井企画係長、企画係福島
議 題	1 委員長の互選について 2 行政評価システムについて 3 今後の予定について 4 その他
傍 聴 者	2 名
審 議 経 過	<p>日程 1 開会</p> <p>委員長が不在であるため、進行は中西副委員長により進められ、会議の成立、また会議の公開が告げられた。</p> <p>続いて、事務局から委員の交代及び就任の報告、また、内海委員及び小山委員から委員就任の挨拶が行われた。</p> <p>日程 2 議題</p> <p>議題 (1)「委員長の互選について」</p> <p>小野委員の推薦により中西副委員長が委員長に、また、中西副委員長の委員長就任によって副委員長の席が空席となったため、中西副委員長の推薦により平山委員が副委員長に、委員一同了承のもと選出された。</p> <p>議題 (2)「行政評価システムについて」</p> <p>事務局から内容(資料項目 1~3)を説明。その後、各委員からの意見及び質疑を行った。</p> <p>各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答</p> <p>(小野委員)説明責任を果たしていくということであるが、現状を含め、具体的にどのような方法で説明責任を果たしていくと考えているのか。</p> <p>(事務局)最終的にはシート自体を住民にご覧いただきたいと考えている。しかし、平成 19 年度の本格的な実施から現在に至るまで、積極的に公開していないのが現状である。シートの内容には内部管理的な部分も多く含まれているため、今後は住民にとってよりわかりやすいシートに改良したいと考えている。1 つシートだけを見て町の事業を評価することは難しいと考えているため、事務事業評価から施策評価へ、施策評価から政策評価へと体系的に説明できればと思っているが、現時点では課題が多く残っている。</p> <p>なお、現在は公開の第一歩として、情報公開コーナーに概要版を冊子として公開している。</p>

(伊藤委員) 説明責任を果たすためには、このシートを住民が見ても分かりやすくするよう、いかに簡潔明瞭なシートにするかが重要である。するとシートの作成段階で職員が文章づくりに終始してしまわないよう注意すべきである。

成果と活動の指標を履き違えないためにも、内部の活動を通じてどのようなサービスが提供できたかという視点を踏まえ事務事業評価をしていくべきである。

(事務局) 成果など数値的な部分は書きやすいが、住民にとってどのようなメリットがあったかどうかは見えづらい部分でもあるので、シートを見て判断できるよう改善したい。

(木村委員) 「住民のニーズ」や「住民の視点に立って」という表現があるが、「住民の視点」という表現は漠然としている。現在、住民の意見を把握し事業内容に反映していくことは行っているのか。

(事務局) 町長の手紙や各種計画策定時に意識調査を実施している。事業を前例踏襲するだけでなく、その時点で住民がどのように考えているかという視点を常に持つよう今後も指導していく。

(木村委員) 町長の手紙は何件来ているのか。

(事務局) 平成 19 年度のデータであるが、92 通で内容は 96 件である。そのうち E メールでは 68 件をいただいている。

(伊藤委員) シート作成の際に、活動を通じた実績だけでなく、事業を実施することで住民にとってどのような効果があるのかを視点において作成することが必要である。例えば道路補修を例にとっても、年度ごとに何メートルできたかという活動実績だけでなく、どのような効果があったのかも示されるべきである。また、資料にある福祉会館についても、福祉会館を改修した後、運営していくことによってどのような効果が想定されるのか、また住民にとって必要なサービスは何かを考えていけば成果目標も引き出せてくるのではないかと。

長期計画で実施していくものについて、事業完了の期限を設定するとともに、年度ごとにどのような効果があったのかなどを細かく見ていくことも必要である。シートの 2 枚目に記載されている細かい予算配分についても、これ自体は別途まとめておき、事務事業評価では予算の執行を視点に置くより、事業が適正な成果をあげてきているかどうか視点に見ればよいのではないかと。

作成要領に基づき、文章表現など記載方法の統一を図るべきである。

(事務局) シートの内容が定量的なものに終始してしまわないよう、利便性やどのような効果があったかなどがわかるように改善したい。また、記載方法の統一化など書き方についてさらに徹底していきたい。

なお、シートの 2 枚目は実施計画を策定する際の基礎資料とする関係で、細かい数値等をこの中に凝縮している。シートを作成する際に各担当に負担があるのも事実であるが、委員からいただいた意見を取り入れ、改善したい。

(湊委員) 事業の達成度の内容をみると「一部」という表現があるが、パーセンテージなど数値で表した方が住民にとってわかりやすいのではないかと。

(事務局) 行政評価制度の後から導入した人事考課制度では、難易度と達成度をパーセンテージで示している。わかりづらい部分については改善していきたい。

(小山委員)各シートの年度の流れについてはすべて統一したほうがよい。
シートの2枚目の要求部分のコメントが全て同じ内容というのはおかしいので、どの程度の成果があったかのコメントは添えるべきである。
シートの1枚目に他市町村の比較があるが、どのような基準に基づいているのか。
(事務局)シートの流れは改善し、またコメントは現状に適した表現にできるよう改善したい。
他自治体の比較は瑞穂町と同じような状況にある自治体や先進的な自治体を各課で選定している。

事務局から内容(資料項目4)を説明。その後、各委員からの意見及び質疑を行った。
各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答

(村山委員)「一定の基準のもとに事業選定を行い」とあるが「一定の基準」とはどのようなものなのか。また、専門委員とはどのような方なのか。
(事務局)各事業の分野ごとの選定、一定の予算規模に基づいた選定、前年度と比較した選定など、いくつかの案の中から委員の意見も取り入れ、基準を示していきたい。

専門委員であるが、現在大学の教授をされており、また、行政評価制度を導入する際にも相談をしていただいた方である。

(平山委員)行政評価委員の関わりで、委員から意見をいただくということであるが、実際にどのような手段を考えているのか。これだけシステムチックにできるのであれば、例えばパワーポイントを活用して説明することや、担当者が同席のもと事業について説明していただいた方がわかりやすくなるのではないかと。

(事務局)シートだけで個々の事業を委員に評価していただくことも必要であると考えているが、よりわかりやすい手法を考えていきたい。

(伊藤委員)委員会で評価したものを現場にどのように伝えていくかを考える必要がある。委員会からの意見や指摘事項を現場に伝え、改善につなげていかないと職員の政策経営能力も伸びてこないのではないかと。また、改善した部分について行政評価委員会に示していくことも必要である。

シートを作成する際に事前に事務局で前年度のデータを入力しておき、改善しなければならぬ部分や変化があった部分だけ担当に変えてもらうなど、職員のやりやすさも考慮することも必要である。

(事務局)シートについては担当課でデータを持っており、必要に応じて修正を加えているが、記載の方法など意見をいただいたので改善をしていきたい。

議題(3)「今後の予定について」

事務局から内容を説明。

(各委員からの意見及び質疑なし)

議題(4)「その他」

中西委員長から、町の長期総合計画策定にあたって設置された審議会の委員に行政評価委員会から木村委員が就任した旨の報告がされた。

続いて、事務局から、国の制度に基づいて実施されている、または実施予定の3件の補助金等について報告した。

各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答

(伊藤委員) 乳がん検診や子宮がん検診を国の制度で実施しているということであるが、女性特有のがんが対象になっているのは理由があるのか。

(事務局) 国の経済危機対策で、さまざまな分野の中の健康づくりという分野があるが、そこで女性特有のがんを助成していくということが国の方針としてあるようである。

閉会 午後2時43分